

研究課題名	結核性髄膜炎および脳結核腫における脳血管障害の合併に関する臨床的検討
研究責任者名	東広島医療センター 脳神経内科・医師 木本 和希
研究期間	倫理審査承認日～ 2026年3月31日
対象者	西暦2009年4月1日～西暦2025年3月31日の期間、当院で結核に対する治療を受けた患者さん
意義・目的	<p>結核は依然として世界の主要な公衆衛生問題の一つです。日本国内でも年間新規登録患者数が1万人を超える重要な感染症です。結核菌 (<i>Mycobacterium tuberculosis</i>) は肺を主な標的臓器としますが、時に中枢神経系を含む肺外結核を引き起こすことがあり、特に結核性髄膜炎および脳結核腫は、重度な神経学的後遺症や高い致死率を伴う病態として知られています。</p> <p>結核性髄膜炎および脳結核腫の臨床経過において、脳血管の炎症性変化（血管炎）による脳梗塞や脳出血といった脳血管障害を合併することがあります。脳血管障害を合併すると、その後の病状がさらに悪化する可能性があり、また多彩な臨床像をとるため、診断および治療に難渋することが少なくありません。先行研究においては、脳血管障害の合併が結核性髄膜炎患者の約20～40%に認められたと報告されていますが、その発症機序や危険因子については未だ十分に解明されていない状況です。特に、脳血管障害を発症しやすい患者さんの背景（年齢、基礎疾患、免疫状態、結核の重症度など）、適切な画像診断の方法、抗結核化学療法やステロイド療法の効果、脳血管障害発症後の最適な治療戦略については、情報が不足しており、更なる臨床研究による知見の集積が必要な状態です。</p> <p>本研究では当院で結核性髄膜炎や脳結核腫に対する入院治療を行った患者さんの中で、脳血管障害を発症した患者さんの背景や治療内容、その経過を調べることで、結核性髄膜炎や脳結核腫を発症した方が脳血管障害を発症しないようにするためにはどのようなことが重要か、脳血管障害を発症した場合にはどのような治療を行うことが良いか知見を深めていくことが目的です。</p>
方法	<p>東広島医療センターにおいて作成された診療録情報（カルテ）を使用して研究を行います。通常の診療にて得られるデータのみで研究を行いますので、患者さんの体への負担はありません。当院で結核性髄膜炎や脳結核腫に対する入院治療を行った患者さんの年齢、性別、国籍、病歴、既往歴・併存症、生活歴、症状、治療内容、検査結果（血液検査、髄液検査、尿検査、喀痰検査、各種画像検査）、治療方法、予後についてカルテ上で情報収集を行い、比較検討を行います。</p>
試料・情報の管理責任者	東広島医療センター 脳神経内科・医師 木本 和希
個人情報保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ窓口	東広島医療センター 脳神経内科・医師 医師 木本 和希 住所：〒734-0041 広島県東広島市西条町寺家 513 電話：082-423-2176(代表)